

目次

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (味覚編)
- 3 あそびうた たけのこ
- 4 今月の詩 ぶらんこ 淵上毛銭
- 5 たし算 1の段
- 6 ことわざ 犬も歩けば棒にあたる 憎まれっ子世にはばかる
悪銭身につかず 早起きは三文の徳
- 7 かけ算 2の段
- 8 俳句 松尾芭蕉 小林一茶 杉山杉風
- 9 かぞえうた 1頭 1斤 1挺 (パンダ、食パン、バイオリン)
- 10 なぞなぞ
- 11 手あそびうた いとまき
- 12 音の絵本 救急車 飛行機 消防車 S L バス
- 13 イメージストーリー リード君 (第1話 はじまり)
(イメージしてみましよう)
- 14 今月のうた ともだち
- 15 おはなし 大きなかぶ
- 16 童謡 春がきた
- 17 漢詩 春 曉
- 18 百人一首 大弍三位 菅家 大中臣能宣朝臣 壬生忠岑
- 19 復習コーナー
- 20 暗示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

*番号は、CDトラックNOです。

《たけのこ》

たけのこ ピョン ^{ふた}二つで ピョンピョン

たけのこ ピョン ^{ふた}二つで ピョンピョン

^{みっ}三つで ピョンピョンピョン ^{みっ}三つで ピョンピョンピョン

あっちに ピョンピョン こっちに ピョンピョン

^{ふた}二つで ピョンピョン ^{みっ}三つで ピョンピョンピョン

^{ふた}二つと^{みっ}三つで ピョンピョンピョンピョンピョン



ぶらんこ

ふちがみもうせん
淵上毛銭

ぶらんこに ^の 乗って

^{あおむ} 仰向けに ゆられていると

オルガンを ^き 聞いているようだ

^{あす} 明日も オルガンに ^の 乗って

あの ^{くも} 雲に ^あ 逢おう



ことわざ

いぬ ある ぼう
犬も歩けば棒にあたる

じっとしていればよいものを、^で出しゃばると思い
がけない目にあう。



にく よ
憎まれっ子世にはばかる

^{ひと}人に憎まれるような^{もの}者が、かえって^{せけん}世間では^{はば}幅を
きかす。



あくせん み
悪銭身につかず

^ふ不正な^{しゅ}手段で^て手に入れた^いお金は、いつのまにかな
くなくなってしまいうということ。



はや お さんもん とく
早起きは三文の徳

^{あさはや}朝早く起きるとなにかしら^よ良いことがあるもので
ある。



俳句

ふるいけ かわずと飛び込む みずおと
古池や かわず飛び込む 水の音

まつお ばしょう
松尾芭蕉



なひばり ひとかお ひく
鳴く雲雀 人の顔から 日の暮るる

こばやし いっさ
小林一茶



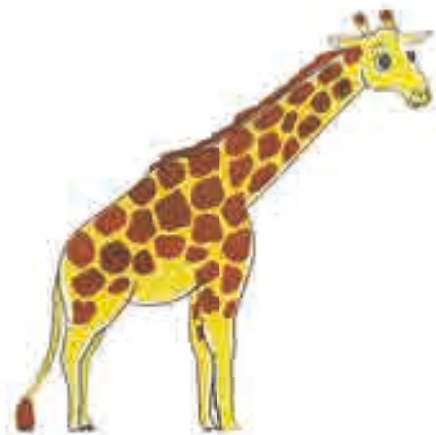
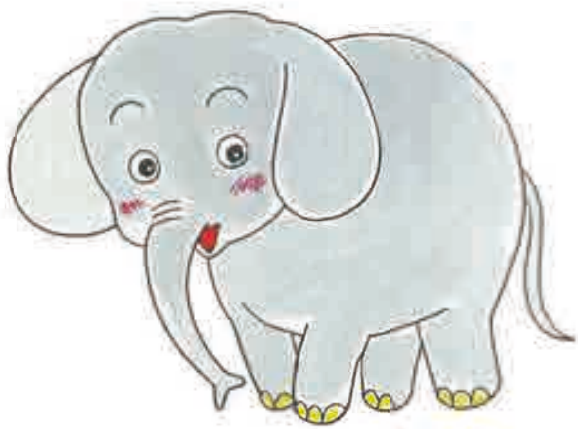
うまほお おおし のけ 摘むや すみれぐさ
馬の頬 押し のけ 摘むや すみれ草

すぎやまさんぶう
杉山杉風



なぞなぞ

- 1 おはなが、ホースのようにながい動物はなあに？
- 2 ^{みみ}耳が^{なが}長くて、ぴよんぴよんとはねる動物はなあに？
- 3 あかちゃんをお腹の^{なか}袋に、^{ふくろ}だいに^い入れている動物はなあに？
- 4 ^{くび}首が^{なが}長いせいたかの^{どうぶつ}っぽさんの動物はなあに？



《いとまき》

① いとまきまき いとまきまき



手をグーにして、ぐるぐるまわす

② ひいてひいて



2回よこにのばす

③ トントントン



グーを3回あわせる

④ いとまきまき いとまきまき
ひいてひいて トントントン

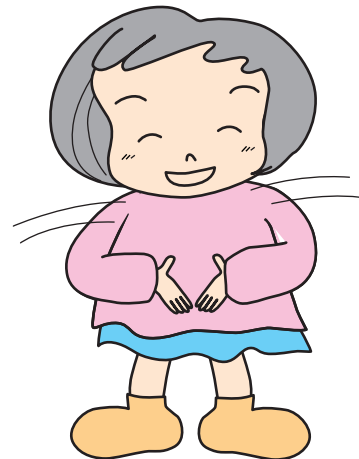
①②③ をくりかえす

⑤ できた できた



8回手をたたく

⑥ こびとさんの おくつ



手でくつをつくり、からだをゆらす

音の絵本

今月は、いろいろな乗り物です。

1) 救急車きゅうきゅうしゃ

2) 飛行機ひこうき

3) 消防車しょうぼうしゃ

4) S Lएसエル

5) バス



《ともだち》

ともだちっていいね なかよくしよう

ともだちっていいね ケンカしても なかなおり

こまっていたら たすけてあげよう

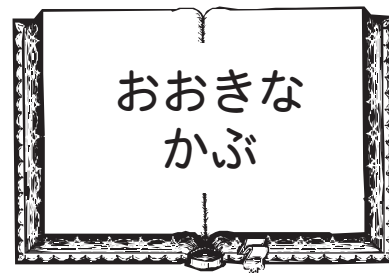
おこった顔かおや 泣き顔な がおより

笑顔え がおが見たいから

ともだちいると 心こころぽかぽか あたたかい

ともだちになろうよ なかよくしよう

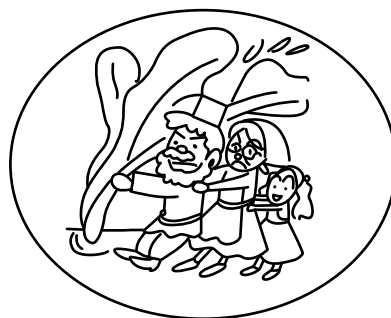
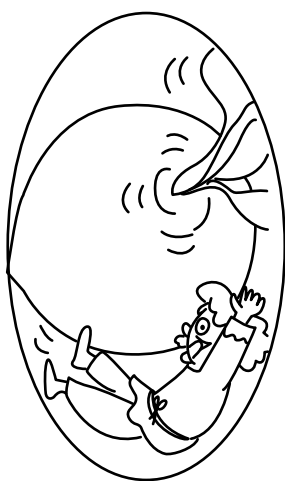




「おおきなかぶ」は、みんなで力を合わせてかぶを抜くお話です。

お話を聞いた後で、質問にこたえてみましょう。

- 1 おじいさんは畑に、何をまきましたか。
- 2 困ったおじいさんは、家に帰ってどうしましたか。
- 3 孫をひっぱったのは、誰ですか。
- 4 最後に、誰が加わったので、抜けたのですか。
- 5 全部で何人と何匹が力を合わせたのでしょうか。



春 しゅん

暁 ぎょう

孟浩然 もうこうねん

春眠 しゅんみん 不 しよ 覺 しよ 曉 あかつき

夜來 やらい 風雨 ふうう の 声 こえ 啼鳥 ていちよう を 聞 き く

知 し る 多 た 少 しょう ぞ

花 はな 落 お つ る 事 こと

有馬山ありまやま

猪名の笹原いのな ささはら

いでそよ人を風吹けば忘れやはするいひと かせふ

(大弐三位)

このたびは

幣もとりあへず手向山ぬさ たむけやま

紅葉の錦もみじ にしき 神のまにまに

(管家)

みかきもり

衛士のたく火の夜は燃え

昼は消えつつ物をこそ思へひる けしき

(大中臣能宣朝臣)

有明の

つれなく見えし別れより

暁ばかり憂きものはなしあかつき

(壬生忠岑)



大弐三位